



坂道の町「宗像」のバックボーン

『新修宗像市史』自然部会から

バックボーン地形の捉え方

湿潤変動帯にある日本は、豪雨があり地震も生じる結果、起伏の大きな国土になっています。宗像市もその環境下にあり、低地と山地のコントラストが明瞭な土地柄になっています。『新修宗像市史 うみ・やま・かわー地理・自然』では、その土地柄を地形区分図として紹介しました。おおよそ、作られた時代の古い順に対応させ、高い方から山地・丘陵、上位段丘、下位段丘、沖積低地、微高地、旧河道、砂丘、水域を区分しています。また活断層がこれらを切断する姿も表しました。また文字で文章を読み書き、数字で計算をするのにワードやエクセルを使うが如く、地理空間情報で空間を読み分析し、地図表現するために今日GIS (Geographic Information System) が使われます。このためGISの取り扱い能力は、リテラシーに対しグラフィカシーと呼ぶことがあります。『新修宗像市史 うみ・やま・かわー地理・

地形に対応した宗像の坂道の見方

自然』では、その土地柄をGISで分析した標高や傾斜の地形量の特徴を地図で紹介しました。おおよそ、標高50m以上が約43%で、傾斜6度以上が約60%もあります。また日の里地区のように山地・丘陵を改変し造成された住宅地も本市には多いので、その地形改変量も地図で紹介しています。

地形区分と地形量で紹介したように、本市には様々な要因で生まれた凹凸があります。その凹凸は移動の障壁となり、道は迂回(うかい)したり、それを貫いたりします。貫く場合、人はそこを坂道と呼び、通過の際に加減速のストレスを感じます。ここでは地形の魅力を感じることのできる3坂を紹介します。

まず宮田峠の坂道です。実際街道を歩けば、安全で通過しやすい地形が経路に選ばれていると感じられます。唐津街道も同様ですが、山地・丘陵を避

け難い場合、中でも経路には鞍部が選ばれます。自由ヶ丘にある宮田峠はその典型ですが、峠までは沖積平野から上位段丘、下位段丘を通過する急な坂道になります。この坂道を西に下る際に、ジェットコースターのように体が浮き上がる感覚を味わうこととなります。十分に減速して通過することが肝要ですが。

次に東郷橋渋滞の坂道です。スーパーや役所に所用があれば、釣川に架かる東郷橋を渡ります。その際、橋に接近する手前でかすかな坂道を通過しますが、それが沖積低地と自然堤防間の坂道になります。さらに東郷橋は両岸堤防上の道路も交差するので、通行に時間を要することが多く、市民の多くは東郷橋渋滞の印象が強いかもしれません。

最後に葉山の坂道です。葉山地区は南に山地・丘陵を擁し、そこから北へ上位段丘、下位段丘、沖積低地が交互に延びていました。そこを東西に貫くメインストリート葉山通りが設置された結果、坂道が連接する凹凸道路が生まりました。自由ヶ丘から葉山に達し、その境界付近から東方を望めば、穏やかな陽光を受けコントラストの明瞭なストリート景観を楽しめます。

『新修宗像市史 うみ・やま・かわー地理・自然』では、地形の内容を客観的に科学的に記載しましたが、見方次第では市民の皆様の暮らしの中で、楽しみを創出できる素材としてご活用いただけるものと思います。

(自然部会 黒木貴一)



(右上) 宮田峠の急な坂道の景観



(右下) 東郷橋の緩やかな坂道の景観



(左上) 葉山の凹凸坂道の景観